

【消火栓据付け・設置方法】

- フランジ面に貼ってある保護シートを外し、フランジ面を清掃してください。
- 相手フランジ面にガスケットを設置し、消火栓を相手フランジ面に合わせて、接合材にて締め付けてください。締め付けの際は片締めにならないよう注意願います。
- 消火栓の据え付けはL型ブロック又は平らな基礎の上に置く必要があります。必ずまっすぐ据え付けて傾かないようにしてください。
- 地中排水装置付近には砂利等を埋置して排水を完全にできるようにしてください。残水が十分に排水されないと凍結による破損等の事故が起こる可能性がありますので、十分ご注意ください。
- 地中直管のやや上部まで、砂利を入れ固めた後、コンクリート基礎を施し、その上にコンクリートブロックをはめ込み固定します。
- 安全装置付消火栓は、本体転倒の場合復旧作業に際し、安全座金の入れ替え及びボルト締めが容易にできるよう、本体フランジ部及び安全装置部はコンクリートで固定しないでください。本体フランジ部をグランドレベルより約 100～150 mm 上げて施工されることをお勧めします。

【注意事項】

<凍結予防>

地中排水弁廻りは、土質により土中浸透しにくい地質の場合があり、排水弁の目詰まり事故の原因になる場合がありますので、ドレン廻りには栗石（70～150 mm大）を10個程度入れて目詰まり防止及び長期の排水用空間を設けて、その上部に碎石を入れて消火栓内の残水をスムーズに排出する施工の方法を採用願います。

<主弁水漏れ予防>

消火栓は通水時又は洗管時のドレン作業に使用しないでください。消火栓を泥吐きに使用しますと、主弁弁座部の損傷が発生し又、地下自動排水弁の目詰まりを起こす原因になりますので、正規の泥吐弁又は空気弁を使用し通水テスト、洗管作業等を行ってください。

